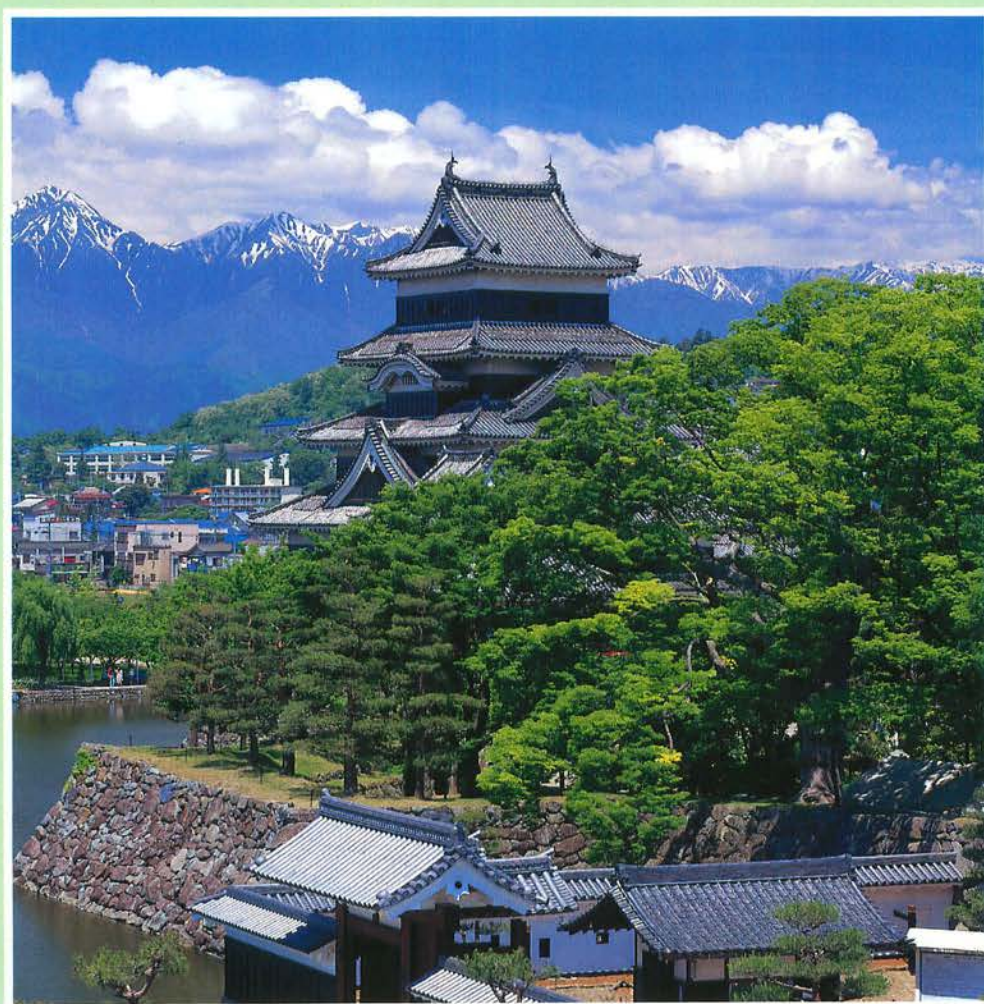


平成28年度日本歯科大学信越地区歯学研修会

再生歯学の現状と未来を考える



松本城と北アルプス

日時:平成28年11月12日(土)
場所:ホテル ブエナビスタ(長野県松本市)
主催:日本歯科大学校友会
日本歯科大学歯学会
信越地区日本歯科大学校友会

日本歯科大学校歌

作詞：小暮英男 / 校閲：児玉花外 / 作曲：近藤栢次郎 / 編曲：前田俊明

お お ぞ ら な が る る あ かつ き の
 か ね の ひ び き に あ け そ む る
 ふ よ う は っ だ の す が た こ そ わ
 れ ら が ぼ こ う の ま も り な れ
 ち は よ し く だ ん ふ じ ー み は ら な
 は よ し に ほ ん し か だ い が く

大空流るる暁の

鐘の響きに明け初むる

芙蓉八朶の姿こそ

吾等が母校の守りなれ

地はよし九段富士見原

名はよし日本歯科大学

高鳴る血潮の香をのせて

岸打つ文化の波頭

振り立つべき同胞の

甘幸もたらす学徒われ

地はよし新潟浜の浦

名はよし日本歯科大学

今さし出ずる朝日子の

平和と愛との輝きに

照りそう真紅の光こそ

吾等が母校の使命なれ

地はよし九段富士見原

名はよし日本歯科大学

平成28年度日本歯科大学信越地区歯学研修会

平成28年11月12日(土)

会場 ホテル ブエナビスタ
2F メディアール

13:30	受付開始		
14:00	開会式		
	総合司会	長野県日本歯科大学校友会専務理事	平林 正明
	開会の辞	長野県日本歯科大学校友会副会長	小松 正隆
	校歌斉唱		
	当番会長挨拶	長野県日本歯科大学校友会会長	中 瀧 哲
	来賓挨拶		
		日本歯科大学理事長・学長・校友会会頭	中原 泉
		日本歯科大学校友会会長	近藤 勝洪
		日本歯科大学歯学会会長	勝海 一郎
		日本歯科大学校友会常務理事	田中 良彦
		日本歯科大学校友会副会長(信越地区)	片山 修
	テーマ 再生歯学の現状と未来を考える		
	座長	日本歯科大学歯学会副会長	志賀 博
		長野県日本歯科大学中信支部	窪田 裕一
14:30～15:15	学長講演		
	「日本歯科大学は、今」		
		日本歯科大学理事長・学長・校友会会頭	中原 泉
15:15～15:25	休憩		
15:25～16:25	講演1		
	「バイオ再生医療と歯髄細胞バンク」		
		生命歯学部発生・再生医科学講座教授	中原 貴
16:25～16:35	休憩		
16:35～17:35	講演2		
	「エビデンスに基づく歯周組織再生治療の現状と未来」		
		新潟生命歯学部歯周病学講座教授	佐藤 聡
17:35～17:55	質疑応答		
17:55	閉会式(閉会の辞)		
		長野県日本歯科大学校友会副会長	渡邊 均
18:10～	記念撮影会(4F 写真室)		
18:20～20:30	懇親会(2F メディアール)		

学長講演



中原 泉 (なかはら せん)

日本歯科大学理事長・学長

日本歯科大学校友会会頭

「日本歯科大学は、今」

本年、日本歯科大学は創立110周年を迎えました。

この110年目の年に、私どもの日本歯科大学は、社会や斯界のなかで、どのような立ち位置にいるか。それは、おのこの先生方の判断と評価に由ります。

私は、先生方が、母校をどのような視点から見ておられるかを考えながら、先生方からは見えにくい、また見落としている母校の一面を知って頂きたいと思えます。

そこで本日は、母校の見方について私見を述べさせていただきます。

講演 1



中原 貴 (なかはら たか)

日本歯科大学生命歯学部
発生・再生医科学講座 教授

「バイオ再生医療と歯髄細胞バンク」

近年の再生医療は、生体材料、成長因子、細胞、遺伝子治療などのさまざまなアプローチによって、多岐にわたる発展を遂げた。その中でも、とくに“細胞”を用いた新たな医療を、私は「バイオ再生医療」と名づけた。

その象徴であるiPS細胞は、2014年9月に滲出型加齢黄斑変性の治療に投入され、すでに2年が経過している。この間、さいわいにも目立ったトラブルはなく、世界初のiPS細胞による臨床研究は、順調に推移しているように見える。

歯科におけるバイオ再生医療は、おもに2つの臨床研究が行われた。東京女子医科大学において、中等度の歯周ポケットを有する歯周病患者10名に対して、自家歯根膜細胞シートを用いた歯周組織再生の臨床研究が行われた。国立長寿医療研究センターでは、う蝕による不可逆性歯髄炎の患者5名に対して、抜髄根管への自家歯髄細胞の移植が行われた。いずれも、歯周組織あるいは歯髄の臨床的治癒をみとめ、為害作用の報告はない。

本学は昨年、将来のバイオ再生医療にむけて、また後述する歯髄細胞バンクを実施するため、厚生労働大臣の承認による、特定認定再生医療等委員会を設置した。これは、一昨年に施行となった再生医療新法にしたがい、体性幹細胞などを用いる再生医療（第2種再生医療等行為）を実施するために審査・承認を得るべき委員会である。2015年6月における本学の同委員会の設置は、居ならば国立系大学・医療機関のなかで、私立大学としては最初となる快挙であった。

将来のバイオ再生医療を実施するには、あらかじめ患者自身の細胞を用意することが必要である。医科では骨髄バンクやさい帯血バンクなどが存在するが、いずれも血液疾患の治療に用いる細胞バンクであり、いわゆるバイオ再生医療のための細

胞バンクではない。したがって、わが国には現在、バイオ再生医療のための細胞バンクは存在しない。

そこで本学は、治療抜歯した乳歯や智歯の歯髄細胞を保管して、将来の再生医療に活用する歯髄細胞バンクの取り組みを開始した。昨年、計3回の本学特定認定再生医療等委員会の審査・承認を経て、そして、校友会員を対象とした計8回にわたる認定医講習会を通じて、歯髄細胞バンクの参加・協力を募った。さらに、本学生命歯学部100周年記念館地下には、再生医療に特化した細胞培養加工施設（CPF）を建設して、患者の歯髄細胞を培養・保管するソフトとハード両面の整備を行った。その結果、これまでに886名の認定医が誕生し、現在まで20名を越える歯髄細胞のストックが完了している。

わが国は、iPS細胞ストックと称して、他人の細胞から作製した免疫原性の低いiPS細胞を用いて、ひろく患者の再生医療に供する他家移植を推進している。しかし、われわれの歯科医療においては、腫瘍化・がん化の不安がつきまとうiPS細胞ではなく、自身の歯髄細胞によって安全に再生医療を受けることができる未来が望ましい、と私は考えている。

本講演では、現在のバイオ再生医療について概説し、将来の医療における歯髄細胞バンクの意義について考えてみたい。

参考文献

1. 来たるべきバイオ再生医療に向けて～「歯髄細胞バンク」という新たな歯科医療のカたち～, 日本歯科医師会雑誌, 68(10): 19-27, 2016.
2. 歯科から発信するバイオ再生医療～「歯髄細胞バンク」という新たな希望～, 公益財団法人8020推進財団会誌「8020」, 15: 46-49, 2016.
3. 2020年歯科医療シミュレーションマップ バイオ再生医療は歯科に新風を吹きこむか?, デンタルダイヤモンド, 41(1): 28-33, 2016.
4. バイオ再生医療の現状と展開～“安全な”歯科医療を再考する～, 日本歯科医師会雑誌, 67(6): 21-32, 2014.



パルフィーくん®(右)と
パルプンくん®(左)

略 歴

1999年3月	日本歯科大学歯学部 卒業 (88回卒)
1999年7月	京都大学再生医科学研究所 特別研究生 (2002年6月まで)
2003年3月	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了 博士 (学術) 取得
2003年4月	日本歯科大学歯学部発生・再生医科学 助手
2005年4月	日本歯科大学歯学部発生・再生医科学 講師
2008年4月	日本歯科大学生命歯学部発生・再生医科学 准教授
2010年4月	日本歯科大学生命歯学部発生・再生医科学 教授 (現在に至る)
2016年2月	東京慈恵会医科大学大学院医学研究科博士課程修了 博士 (医学) 取得

講演 2



佐藤 聡 (さとう そう)

日本歯科大学新潟生命歯学部
歯周病学講座 教授

「エビデンスに基づく 歯周組織再生治療の現状と未来」

歯周病では、疾患の進行にともない歯を取り巻く付着器官が破壊され、炎症の根尖側方向への拡大から歯を取り巻く歯槽骨の吸収へと重症化することが知られている。歯周治療では、歯周基本治療として口腔の衛生環境を改善させることにより歯肉縁上のプラークを一定の割合まで減少させるとともに、機械的なスケーリング・ルートプレーニングにより歯肉縁下の汚染物質の除去が行なわれている。一方、失われた歯周組織の再生としては、1900年代から骨移植を行うことで失われた歯周組織の再生が試みられてきたが、一定の成果に至ることは困難とされた。このような中、1976年Melcherは、歯周外科後の歯根面に対して歯根膜由来の細胞のみが歯周組織の再生、すなわち新生セメント質を伴った線維性付着を可能とするという仮説を提唱し、この仮説に基づき1982年にNymanらによってヒトに細胞遮断膜(barrier membrane)を応用したGuided Tissue Regeneration (GTR) 法が行なわれ新付着の獲得に成功している。

一般的に組織再生では、組織を再生させることのできる細胞、細胞の増殖のきっかけとなる増殖因子、失われた空間に細胞がいきわたるための足場の3つの要素が必要とされている。これまで歯周組織の再生は、1900年代以降に足場としての骨移植材(自家骨、他家骨、人工骨など)の応用や、その後のNymanらによるGTR法が広く行なわれてきた。さらに近年では、根面処理により歯周組織再生を目指したエナメル基質由来タンパク質(EMD)を応用する治療法へと変遷してきている。これらの歯周組織再生治療法は、日本国内はもとより国外においても臨床において長期的に安定した良好な報告も多数みられる。また現在、研究段階にある根面処理による歯周組織再生法としては、積極的に細胞の増殖を促す因子(PDGF、FGFなど)

を利用した方法や患者自身の細胞から細胞シートを作製し、治療に応用する試みも報告されている。

今回の講演では、現在国内で応用可能な歯周組織再生治療の適応とその治療成績について、2012年に日本歯周病学会によりまとめられた「歯周病患者における再生治療のガイドライン」の内容を含めて紹介する。さらに現在本講座において取り組んでいる歯周組織再生治療の取り組みについて述べたい。

略 歴

1987年 日本歯科大学新潟歯学部 卒業 (76回卒)
1991年 日本歯科大学大学院歯学研究科博士課程 修了
1991年 日本歯科大学歯学部歯周病学教室 助手
1993年 日本歯科大学歯学部歯周病学教室 講師
1996年 テキサス大学ヘルスサイエンスセンター・ヒューストン 留学 (1997年まで)
2003年 日本歯科大学歯学部歯周病学講座 助教授
2005年 日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座 教授
2011年 日本歯科大学新潟生命歯学部先端研究センター再生医療学 教授併任
現在に至る

平成28年度日本歯科大学信越地区歯学研修会準備委員会

【準備委員長】

志賀 博 (75回) 日本歯科大学歯学会副会長

【準備副委員長】

田中 良彦 (71回) 日本歯科大学校友会常務理事
中 篤 哲 (66回) 長野県日本歯科大学校友会会長
片山 修 (62回) 新潟県日本歯科大学校友会会長
日本歯科大学校友会本部副会長

【準備委員】

玉井 憲二 (71回) 長野県日本歯科大学校友会副会長
渡邊 均 (67回) 長野県日本歯科大学校友会副会長
日本歯科大学歯学会評議員
小島 武志 (70回) 長野県日本歯科大学校友会副会長
小松 正隆 (64回) 長野県日本歯科大学校友会副会長
平林 正明 (70回) 長野県日本歯科大学校友会専務理事
根橋 秀一郎 (70回) 長野県日本歯科大学校友会常務理事
望月 崇史 (71回) 長野県日本歯科大学校友会常務理事
和田 雄一郎 (67回) 長野県日本歯科大学校友会理事 (北信支部支部長)
関 浩治 (77回) 長野県日本歯科大学校友会理事 (東信支部支部長)
金井 芳樹 (69回) 長野県日本歯科大学校友会理事 (中信支部支部長)
春日 誠 (73回) 長野県日本歯科大学校友会理事 (南信支部支部長)
三井 建三 (69回) 長野県日本歯科大学校友会理事 (諏訪支部支部長)
宮坂 崇弘 (54回) 長野県日本歯科大学校友会監事
中島 眞里子 (64回) 長野県日本歯科大学校友会監事
日本歯科大学校友会本部理事
平林 大樹 (76回) 長野県日本歯科大学校友会中信支部専務理事
大山 哲男 (80回) 長野県日本歯科大学校友会中信支部常務理事
下條 勝彦 (71回) 長野県日本歯科大学校友会中信支部理事
平林 鉄也 (80回) 長野県日本歯科大学校友会中信支部理事
鈴木 健司 (81回) 長野県日本歯科大学校友会中信支部理事
松澤 智由貴 (82回) 長野県日本歯科大学校友会中信支部理事

Memo

ホテル ブエナビスタ 案内図



長野県松本市本庄1-2-1
☎0263-37-0111

アクセス

- ・電車の場合：JR松本駅お城口（東口）より徒歩7分（無料送迎シャトルバスあり）
お城口（東口）を出て駅を背にして右に進み、松本東急REIホテルを通過後、オリックスレンタカーの手前の道を左折し進むと右手にホテルがあります。
- ・車の場合：松本ICより車で約20分



無料送迎シャトルバス運行時間

7:30～12:00：ホテル側待機

13:00～20:30：松本駅前待機

午前中でもホテルへ連絡すれば、駅からホテルまで送迎可能です。（12:00～13:00は運休）

定員9名

予約制ではありません

シャトルバス乗り場

JR松本駅「お城口」を出て右手駅前ロータリー内



雷鳥 (夏羽から冬羽へ)